

e-ビーフNEWS 北の牧場から

March 2026

十勝のなごり雪

お日様が出るのが一気に早くなってきた。6時前には明るくなる。春一番なのか強風も続き家がバタバタそこらじゅうで叫びをあげてくる。朝は氷点下近くで日中は10℃近くまで上がりポカポカ陽気。雪も一気に解け、畑の土も、そこらじゅうで黒々した顔を見せ、残雪の白さとホルスタイン柄になってきた。まだ真っ白な十勝平野に有色の木立や畑が、目立つようになってきた。日高山脈の山々の輪郭も、地上から上がる蒸気でかすみぼやけてきた。

牛たちの食いも一段と上がり、増体もいい調子。仕入れてきた牛たちも落ち着いている。3月に入ると有機の畑作業の打合せ準備、BBQイベントの打合せやら、各生産団体の総会会合など盛り沢山。。

昨日から雪マーク。春先のドカ雪でなく、なごり雪にしてもらいたい。



活動のお知らせ

- 2/25(水) 令和7年度有機農業全道交流会・技術研修会 北海道主催 TKP札幌ホワイトビルカンファレンスセンター
事例発表 北の牧場舎の農場の現状とこれからの展望
- 3/25(水) 一社)HOAP日本オーガニック畜産会合 第2回総会 講演会 とかちプラザ

NEWSばか読み

- 農水省 生産資材価格124過去最高 飼肥料高が高水準
2/2:コスト高基調
- 農水省 肉用子牛生産者補給金制度10-12月4期発動せず
2/2:子牛価格高騰
- 2025年輸入生産野菜2割増 国内品薄で業務用需要増
2/3:国産基盤若
- 農水省 有機農業の方針 有機農家に経営支援/給食向け加工推進
2/4:実効性
- 韓国 口蹄疫発生9ヶ月ぶりインバウンド増のリスク大2/4:
- 畜産飼料輸送 けん引トレーラーに新造不可2/6:飼料コスト高懸念
- 総務省 2025年実績エンゲル係数28.6%44年ぶりの高水準
2/7:物価高
- 厚労省 2025年実質賃金4年連続減0.1%減 物価高に及ばず
2/10:トントン
- 自民圧勝 食料品消費税ゼロ論議
2/11:消費者と生産者のメリットは課題
- 財務省 国の借金1342兆円過去最大に2/11:次世代に残す危害
- 国交省 ドローン事故で7割が農薬散布 散布面積100万ha
2/12:気を付けて
- 2025年産ジャガイモ出荷が過去最少177万t卸値高騰2/13:
- 大手コメ卸商 決算増収増益2/14:どこに金が
- 韓国 アフリカ豚熱が急拡大2/14:要注意
- 環境庁 業務用建築物に脱酸素設備導入支援2/3補助率
2/15:さっそく
- 移住者19県で過去最高田園回帰 5県減コロナ渦で東京再集中
2/17:
- 北海道 リンゴの生産拡大普及 温暖化にらみ2/20:産地が代る
- 食絶景北海道×ゼロカーボンアワード2026にマンゴー生産ノラ
ワークス2/20:
- 農水省 岡山業者 是正勧告アメリカ産米を国内表示2/21:起こる
- 財務省 農業直払い補助金について不適切交付指摘で農水調査開始
2/21:注意喚起
- 牛ゲップ削減飼料添加物にJクレジット適用2/21:検証
- 2025年度 養蚕農家が全国で113戸過去最少2/23;
- 和牛肉評価に細かさ指数(RFV)採用拡がる
2/23:高格付けで新たな見方
- トランプ新関税発動2/25:こりないね
- アルゼンチン(生産5位)牛肉輸入解禁2/27:低価格層に影響
- 厚労省 2025年70万人過去最少10年連続2/27;

東京直近NEWS(2/22 Shi-REPORT)

ホルス

市況相場は上場少なく上げ基調に変化なし。
絶対頭数の減少傾向は変わらず、各メーカー集荷苦戦継続。
販売状況は不需要期のため、全般に動き鈍く特にロイン、トモバラは動きが鈍化。
生産者も素牛相場高騰と頭数の不足から先の導入に危惧。
一部量販店からはホルスの取り扱い中止の声もあり。
相場高騰分の売価転嫁が課題も国産牛売り場確保が課題。

経産牛

北海道内の出回り頭数の減少傾向は継続課題。
生体市場へは各市場で出回り頭数少ないことから本州から新規参入も目立つとの情報。
直近は相場高騰から枝肉@1000超えの発生。
販売面は年度末に向け、各産地よりアイテムの放出は多少有るものの、
外食中心に消化鈍く、在庫の回転は鈍い状況。
挽き材も一定の落ち着きを見せており、秋口の不足感からはやや終息感あるが、依然不足には変わらない。
国産牛の低位等級が高騰しており和経産の引合いも非常に強い。

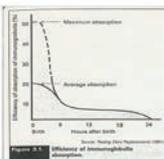
反芻動物の科学Ⅳ 初生子牛の初乳給与と免疫機構
ELF Consulting Office Toyohiko Seno 8回シリーズ③

⑧初乳と常乳の成分比較

項目	分娩後の母乳組成				常乳
	1	2	3	10日	
比重	1.056	1.040	1.036	1.032	
全固形分 %	23.6	17.9	14.1	12.9	
蛋白質 %	14.0	8.4	5.3	3.1	
乳糖 %	4.8	4.3	3.9	3.5	
脂肪 %	48.0	25.0	15.0	6.6	
脂肪 %	6.7	5.4	3.9	3.7	
乳糖 %	2.7	5.4	4.4	5.0	

免疫グロブリン含量は母乳組成で約50μg/L、2週25μg/Lと急速に低下する。母乳でも十分に免疫グロブリンを含む。

⑨分娩後の初乳の平均吸収率と最大吸収率



吸収能力(Picoocytes)は12~24時間で停止(gut closure)する。

Source: Neta (1994) Proceedings of the 1st International Conference on the Nutrition of the Neonatal Calf, University of Minnesota, St. Paul, MN, USA

⑩初乳の給与量とIgGの吸収量

初乳成分	給与量	IgG	吸収率	吸収IgG量
1日目	2kg	5%	10%	50g
2日目	2kg	5%	40%	40g
3日目	2kg	2.5%	20%	10g
合計	6kg	5%	20%	100g

⑪初乳の品質

- 比重1.050以上の初乳はIgG濃度は50mg/mlである。
- 初乳のIgG濃度は22°Cの条件下で比重計で測定する。
- 初乳のIgG濃度は搾乳時間のとともに低下する。
- 汚染されないように初乳を搾乳する必要がある。
- 搾乳後時間の経過に一般細菌が増え、品質が低下する。



⑫初乳の給与量

- 初乳の数の搾乳回数で急速に含量を免疫グロブリンが低下する。
- 初乳中のIgGの濃度は50%/lで、100gを給与するためには初乳は2lを給与する。
- 初乳の給与量は体重の5%が必要とされる。
- 最初の初乳は分娩後1時間以内に2lを給与する。
- 2回目には3〜4時間以内に更に2lを給与する。
- 24時間までに6lの給与が推奨される。

⑬初乳の強制給与の重要性

- 子牛が自ら初乳を乳頭から飲用することは少ない。
- このため、初乳の強制的な補充が必要になる。
- 食道カテーテル(ストマックチューブ)を用いた給与が推奨される。
- 初乳投与中に呼吸器への損傷を注意する。
- 強制給与では第2胃潰瘍発症が起きやすいため第1胃に蓄積、小腸から吸収される。
- 哺乳器具の衛生管理は重要である。

⑭初乳強制給与の手順

初乳の強制給与には右のようなストマックチューブを用いるのが安全で簡単です。ストマックチューブはパイプ、チューブ、クランプ、バッグから構成されています。



From: Penn State University, Netherland Dairy Calf Care (2014)

⑮初乳給与前の準備

ストマックチューブは清潔にしておく。また、初乳を子牛の体温と同じ温度に温めておけば、子牛に給与した際にショックを防ぐことができます。



From: Penn State University, Netherland Dairy Calf Care (2014)

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2025

転載・再利用は固くお断りします

Future With Cows牛とともに歩む未来～資源循環型生産の一事例 5回シリーズ②
農研機構、現：農林水産省 堤 道生 氏

第22回資源循環型肉牛生産シンポジウム2025
2025年10月23日

Future With Cows
牛とともに歩む未来
～資源循環型生産の一事例から～

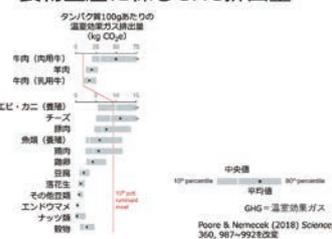
堤 道生
(農研機構、現：農林水産省)

主なGHGと肉用牛生産における排出源

- 二酸化炭素 (CO₂) : 温暖化係数*1
→ 肥料製造、燃料燃焼
- メタン (CH₄) : 同29.8 (化石燃料由来)
: 同27.0 (非化石燃料由来)
→ 消化管活動
- 一酸化二窒素 (N₂O) : 同273
→ 排泄物とその処理、肥料からの直接排出

*IPCC第6次報告書の100年数値

食物生産に係るGHG排出量



食物生産に係るGHG排出量



他の環境負荷の指標

- 都市域大気汚染
- 酸性化
- 室内空気質汚染
- 富栄養化
- 有害化学物質
- 廃棄物
- 騒音
- 土地利用
- オゾン層破壊
- 鉱物資源消費
- 光化学オキシダント
- 化石燃料消費
- 生態毒性
- 生物資源消費

わが国の肉用牛生産の特徴

- 濃厚飼料多給
- 飼料を輸入に依存
- 肥育期間は長め
- 生産効率が高い

環境負荷:国産牛肉 vs 海外産牛肉

- GHG排出量: 国際的にみて標準的なレベル
← 生産効率が高いため
- エネルギー消費量: 極めて多い
← 輸入濃厚飼料に依存しているため



GHG排出量削減の取り組み

- 消化管活動由来のメタン
 - 3-ニトロオキシプロパノール
 - カシューナッツ殻液
 - カギケノリ (国内未承認)
 - 低メタン排出牛の育種
- 排泄物由来のN₂O
 - アミノ酸バランス改善飼料
- 生産効率向上による全体的な削減
 - 育種による飼料効率の向上
 - 肥育期間の短縮

有機肉用牛生産

- EUの飼養牛頭数(酪農含む)でも6%
- わが国では0.056% (1452/261万)

